下野市立石橋北小学校

１　学校課題

主体的に学び、高め合う児童の育成
～「わかる」「できる」が実感できる授業をめざして～

２　研究計画

（１）主題設定の理由

新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進し、児童に生きる力を育むことが求められている。本校の児童は、各種教育調査の結果から、自己肯定感がやや低く、自信を持って学習に取り組むことに課題があることが分かった。そこで、本校の特色であるＩＣＴ機器の活用やこれまでの学校課題研究の成果を生かし、「わかる楽しさ」、「できる喜び」を実感できるよう授業改善を図っていくこととし、算数科を中心に、授業改善や指導法の研究に取り組むことにした。

（２）めざす児童の姿

①課題を自分のものとしてとらえ、解決に向けて取り組み、深く学ぶことを楽しむ子ども
②互いのよさを認め合い、高め合う子ども
③授業で「わかった」「できた」と実感できる子ども

３　研究内容

（１）研究の方針、内容および具体策

「わかる楽しさ」「できる喜び」を実感できる授業の工夫

方針	内容	具体策
(1)学習意欲を高め主体的に学びに向かうことができる授業の工夫	①自ら目的意識や課題意識（疑問・問い）をもつことができる導入の工夫	ア　自作教材、具体物の活用の工夫など イ　ＩＣＴ機器を活用した導入の工夫（ＰＣ、タブレット等） ウ　児童の情意に働きかける課題の提示の工夫（意外性、疑問、好奇心など）と発問の工夫
	②「振り返り」活動の確実な実施と内容の充実	ア　「めあて」「まとめ」「振り返り」の授業展開への位置付けと提示方法の工夫と確実な実践
(2)学習集団での、互いの有効な関わり合いを生み出す工夫	①安心して学び合える集団づくり	ア　Ｑ－Ｕの実施・結果分析による学習集団づくり イ　互いのよさを生かし、互いを認め合う学級経営
	②個のよさを生かす学習形態や学習活動	ア　学習形態の工夫による学び合いと時間の確保 イ　タブレットによる個人の考えの表現
(3)達成感や喜びのある授業の工夫	①達成感や成就感を得られる教材やＩＣＴ機器の活用	ア　教材の収集、開発、作成、管理、活用など イ　ＩＣＴ機器活用などによる個人の考えの表現の工夫 ウ　課題解決のために活用するＩＣＴ機器の使い方スキルアップの支援
	②学年相応の家庭学習の充実	ア　家庭学習の実態調査と分析 イ　家庭学習のガイドラインやモデルの提示（「家庭学習のすすめ」）および家庭への啓発と協力依頼 ウ　授業との関連を図った家庭学習の工夫および自律的・計画的な学習方法の支援

（２）研究授業を通した主題への取組

①３年生算数（Ｓ＆Ｕコラボ事業　指導者：宇都宮大学教育学研究科教授）

○単元名　「分数」

○研究主題に迫るために

課題解決にあたり、既習内容を活用することで、解決への見通しをもって主体的に学びに向かえるようにしたい。また、自らの課題を解決する際、仲間と協力し合ったり、互いの考えを認め合いながら、意見を交流し合い、高め合う活動を通して、研究主題に迫りたい。

○研究協議

・既習事項を確認し、自力解決で一人一人が思考している様子を見て、タイミング良くグ

ループ活動に移ったことで、学習意欲が高まった。
・小数と分数の両方の表し方を学習していることを想起させ、小数と分数の互換性について皆で考えていくことにより、主体的・対話的で深い学びにつながっていく。
・知識を身に付けさせた後に、揺さぶりを掛けるような適応問題を出して、みんなで考えていくのも高め合う活動となる。

②４年生算数（Ｓ＆Ｕコラボ事業　指導者：宇都宮大学教育学研究科教授）

○単元名　「変わり方調べ」

○研究主題に迫るために

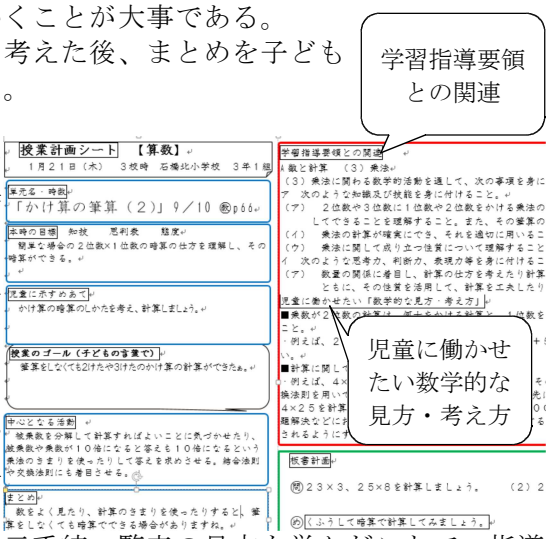
課題を解く過程で、二つの数量の関係を表す表の見方、その変化や関係を調べる方法を押さえて、主体的な学びにつなげていきたい。また、グループでの交流を活用し、表を見ながらどの変化や関係を使って式を考えたらよいかを話し合わせることで、よりよい求め方を考えられるようにしたい。

○研究協議

・効果的な掲示が、子どもたちの課題づくりへつながり、主体的な学びとなった。
・言葉の式や、文字の式に行く前の指導を丁寧に行っていくことが大切であり、いろいろな表現を子どもたちから引き出し、つなげていくことが大事である。
・グループでの交流を活用し、よりよい求め方を考えた後、まとめを子どもの言葉を使いながら行っていていい場面だった。

（３）学力向上推進リーダーとの連携

①教師の授業力向上を目指し、学力向上推進リーダーより提案された授業計画シートを作成し、それに基づき授業実践を行った。「学習指導要領との関連」や「児童に働かせたい見方・考え方」、「言語活動」を明記することで、児童に身に付けさせたい力を意識しながら授業に取り組むことができた。



②授業後の学力向上推進リーダーとの話合いにおいて、実践事例や参考資料等を紹介していただいたり、授業中の児童の様子の見取りから、次時の指導のポイントを教えていただいたりして、効果的な指導法について研修することができた。

③学力向上推進リーダーによる研修時間を設定し、単元系統一覧表の見方を学んだことで、指導の重点項目が明確になった。また、子どもの視点での授業のゴールをより具体的に設定することの重要性を学び、めあて、活動、まとめ・振り返りに一貫性のある授業づくりに取り組めた。

４　本年度の成果と課題

（１）研究の成果

①知識・技能をねらう授業であっても、数学的活動を通して、数学的見方・考え方も獲得していくことができる（スパイラルになる）ことがわかった。

②問題解決の場において、既習事項を意識させ、解決の見通しをもって、自力解決させることができた。これにより、自らの考えに自信をもち、自らの疑問が明確になるなど、交流や対話の活性化につながり、自分の考えに深まりをもたせることができた。

③児童と共に「めあて」を決め、児童の言葉を使いながら「まとめ」に取り組み、「振り返り」活動の確実な実施と内容の充実を図れた。

④学力向上推進リーダーとの連携を図り、授業計画シートを活用したことで、その時間のねらいが明確になり、ねらい達成のための道筋を考えやすくし、「わかる」「できる」が実感できるような授業改善に繋がった。

（２）研究の課題

①主体的・対話的で深い学びの実現のために必要な基礎的・基本的な内容を確実に定着させる工夫をしていきたい。

②研究により、低学年のペア学習の難しさが分かった。発達段階に応じた学習形態を考え、個のよさを生かす学習形態や学習活動をさらに研究していきたい。

③学年相応の家庭学習の充実のために、授業との関連を図った家庭学習の工夫および自律的・計画的な学習方法の支援に取り組んでいきたい。